

木更津市健康づくり推進協議会委嘱状交付式及び平成28年度協議会 議事録

日時	平成28年8月9日(火)	場所	木更津市民福祉会館2階研修室
出席者	別紙 健康づくり推進協議会名簿		
司会進行	(進行)健康推進課副主幹 高橋雅子 (議長)君津木更津医師会副会長 神田豊彦医師	記録者	事務局 高橋由美子
議題	1 役員選出 2 健康づくり推進協議会の概要説明 3 木更津市の健康課題について 4 第3次健康きさらづ21について 5 各部会の取り組み方針について		
配布資料	・会議次第 ・委員名簿、席次表 ・平成28年度健康きさらづ21推進協議会資料 ・第3次健康きさらづ21冊子及び概要版		

内 容 (概 要)

1 開会

2 委嘱状交付式 (委員名簿参照)

3 市長挨拶

わが国は、急速な高齢化や生活習慣の変化により、がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病の割合が増加し、医療や介護に関する負担が一層増えていくものと予測されている。一方、市民の健康を取り巻く状況は、飽食の時代の現代では、食生活の乱れや、運動不足などにより、働きざかりから、年齢とともに肥満者の割合が増え、高血圧症や糖尿病などで治療を受ける方々が多い。

本市では、個人と地域社会が力を合わせて一人ひとりの「健康」を実現していくことを基本理念とした「第2次健康きさらづ21」を平成24年3月に策定し、推進してきたが、昨年度が計画の最終年となり、評価分析を加え、今年度、新たに「第3次健康きさらづ21」をスタートした。

今後は、本計画に基づき、市民や関係者により一層のご理解、ご協力をいただきながら市民主体の健康づくりに向けた事業を積極的に展開していきたい。

この3次計画の目標は、健康寿命の延伸と健康格差の縮小。生活習慣病にならないこと、そして悪化させないこと、そのためには適切な栄養・食生活、身体活動・運動などの生活習慣を子どもの頃から定着させてゆくことが大切。本計画は、健康増進計画、母子保健計画、食育推進計画、歯科保健計画の4つの計画を合わせもち、基本的な生活習慣等の目標数値を設定して、各種施策を進めるものとなっている。

この「第3次健康きさらづ21」を推進し、進捗管理していく上で、是非、忌憚のないご意見を賜りたい。任期は2年間。本市の健康づくりの推進にご尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

4 議題

○議題1 役員選出

本日の会議は、委員18名中16名人の出席。よって、木更津市健康づくり推進協議会要綱第6条第2項の規定により、会議は成立。

なお、同要綱第6条第1項の規定により会長が議長となるが、委嘱期間満了により会長が選出されていないため高浦市民部長を仮議長とし議事を進行。

《 高浦市民部長 議事進行 》

議題1の「役員の選出」で木更津市健康づくり推進協議会要綱第5条第1項、第2項で「会長及び

副会長は、役員の互選により定める」となっており、事務局一任の声があがる。

事務局への（案）の提示を求められ、会長に君津木更津医師会会長の神田豊彦医師、副会長に木更津市小中学校長会の吉本明広氏を推薦する。

委員から「異議なし」の声があり、本案についての承認、挙手全員にて会長に神田 委員、副会長に吉本 委員が選出される。

欠席者については、後日事務局から了承を得ることとなる。

《 神田会長 議事進行 》

この委員は、健康づくり推進者の代表として出席のため、市の健康課題や健康づくり事業を客観的に検討し、よりよい事業が実施できるよう意見交換をしていただきたい。

忌憚のない意見を頂けるよう会長として務めたい。

議題2の健康づくり推進協議会の概要説明を事務局よりお願いしたい。

○議題2 健康づくり推進協議会の概要説明（資料1頁）

事務局 山口副課長

木更津市健康づくり推進協議会とは、第1次国民健康づくり対策を受け、生涯を通じた健康づくりを総合的かつ効率的に実施することを目的に関係行政機関、保健医療機関団体、健康づくり関係団体、住民代表者の委員18名で構成され、昭和54年に協議会に発足。

主な所掌事務は、市の健康増進計画「健康ささらづ21」の策定および進捗管理。

協議会発足以来、市民の健康課題が変化し、特に増え続ける生活習慣病に対応するため、平成24年3月に第2次健康ささらづ21を策定。事業の進捗、目標数値の達成状況調査、評価を行ない、健康づくりを推進してきた。

昨年、第2次健康ささらづ21の計画最終年度を迎え、取り組み事業、市民を対象とした健康アンケート調査の結果、各種統計調査の状況から評価し、国・県の健康増進の指針に沿い、平成28年3月に第3次健康ささらづ21を策定。

委員の任期は2年間で平成30年の6月30日まで。協議会を通じて、市民の健康課題を共有し、生活習慣病の発症・重症化予防について行政や関係機関の連携や取り組みについて、忌憚のないご意見をいただきたい。

○議題3 木更津市の健康課題について（資料3～9頁）

事務局 山野寺副主幹

現在の健康課題は大きく2つ。

①心疾患をはじめとした循環器疾患での死亡者が国・県と比較して高い

②国保・後期高齢被保険者10万対の人工透析患者数が県内上位を占めている

平成26年での年間の死亡者は1265人。内、がん、心疾患・脳血管疾患による死亡が709人で56.1%。半数以上が、予防可能な病氣。

心疾患では、県や、国に比べて多い。

県の国保・後期高齢者被保険者10万対の人工透析者の割合では、木更津市は県内で多い地域。

平成26年度累計では県内ワースト13位。4市管内は県内で高いことが分かります。

新規透析者の年次推移は、年々増加。平成26年、27年とグラフ上では減少しているが、後期高齢に移行したため、実際の数としては、変わらない。毎年30人前後の人が透析を開始している。

新しく透析を開始した人の原因疾患は、糖尿病と高血圧で7割を占める。

千葉県地図でこの木更地域は、メタボの割合も多い。人工透析の地図と一致している。

メタボの原因として内臓脂肪があるが、肥満の出現率は男性では、20～40歳で肥満者の割合が高くなる。女性は、30歳～40歳から増える。

30歳代の若年期健診の結果では、メタボ該当者は年々増えている。

国保加入者40歳～74歳の特定健診結果では、健診受診者11507人の内、メタボ、予備軍合計1300人以上いる。非メタボでの血圧、糖尿病、腎機能が特に悪い人は500人弱。

生活習慣病は、動脈硬化から血管が切れたり、詰まることによるもの。心疾患、脳血管、人工透析 全て動脈硬化からおこるもの。

動脈硬化は、30年かけて進んでいく。子どもの時からのライフステージにあわせた生活習慣病予防が急務な健康課題。

○議題4 第3次健康ささらづ21について(資料10～11頁、冊子31頁) 事務局 山野寺副主幹

1) 第3次健康ささらづ21の全体構成について。

目標は、健康寿命の延伸・健康格差の縮小。この目標に向けて4つの計画を推進。

健康格差の縮小とは、健康で長生きできること、市民誰もが、健康になるために必要な情報を得て、実践できることを目指す。病気にならず健康であることを目指す。

そのために2つ、重点で取り組むことがある。(冊子31頁の計画全体の図)

①生活習慣病にならないこと、発症予防と悪化させてない重症化予防の徹底。

②の生活習慣の改善、栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する改善。これらを4つの計画で推進していく。

健康増進計画は、全ての計画に連動しているもの。

がんの予防と循環器疾患(心疾患・脳血管疾患)・糖尿病の予防のために、保健指導を充実させること。がんは、早期発見による検診受診率の向上。循環器疾患は、保健指導の充実によりメタボ、高血圧、糖尿病の減少。そして心筋梗塞、脳卒中の透析の減少。結果的に、介護保険が必要とならない健康的な市民を増やす。

2) 母子保健計画について

母子健康手帳の発行は、年間約1000～1100件前後。内、出生2500g未満児は、全体の10%前後で推移。又、1500g未満の極小低出生児が増えている。

安全・安心な妊娠・出産を支援し、切れ目ない子育て支援の保健対策を行っていく。

生活習慣病、動脈硬化等の予防を図るために、乳幼児期からよりよい生活習慣を身につけ、行動できるように支援していく。更に、児童や生徒自身がこころと体の健康を考え行動できる力をつけていくことを学校と協力して取り組んでいく。

育てにくさを感じる親やの支援、妊娠期からの関わりによる児童虐待予防も行っていく。

3) 食育推進計画について

計画の基本理念は、健やかな体と豊かな心を獲得するための食行動ができ、次世代につなぐこと。

食は、親から子へつながっていく。

本市においても、飲食店、コンビニ、の商業施設の増加がみられ、ライフスタイル、食のスタイルの多様化から、健康な体を担う食教育の必要性が重要。

この基本理念を実現する為に3つの基本方針に沿って計画を進めていきます。

①健やかに育てよう伝えよう～食に関する習得～ 教育的な要素。

②食の知識・体験を深め、選択力をつけよう～食に関する理解～

食材の意識、「地産地消」等作物など農林水産的な要素。

③健やかな体を獲得するための食生活を実践しよう～健全な食生活の実践～

体にとって必要な食品バランスよく食べるなど健康の要素。

健康な体をつくるのは難しいことではなく家族そろって主食・主菜・副菜を揃えた日本型食生活を適量食べ、体を動かし、質の良い睡眠をとる基本的な生活習慣を親子双方から啓発していく。

4) 歯科保健計画について

本市は、平成25年4月に木更津市歯と口腔の健康づくり推進条例を制定し、その中で具体的な施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画の策定を義務づけている。

歯科保健計画では、むし菌及び歯周病の発症予防と重症化予防を行い、生涯にわたり健全な口腔機能が維持できることを推進。

幼児健診のむし菌有病者率は年々減少傾向など、幼児期からの指導の徹底を図る。

学童期における歯磨き指導、フッ化物指導の継続実施や成人期の成人歯科健診の充実などの環境整備を図る。

5) 第3次健康ささらづ21計画の特徴(冊子133頁)

ライフステージ別健康目標が挙げられている。妊娠・胎児期から成人高齢期まで、各項目の現状と、計画の最終年平成34年までの目標を数値で示している。

市の様々な保健衛生データを自ら分析し、現状を出している。

市民が康になるための取り組みを実践できるよう、指導すべき項目を明らかにし、効果的な事業展開や、PDCAサイクルにもとづき評価をし、推進委員方々と共通認識のもと具体的な推進を図っていきたいので協力をお願いしたい。

本計画を土台に、市民・行政・関係機関などが一体となった健康づくりに理解をいただき、元気な子どもたち、病気にならず、医療にかからず、介護保険も利用しない市民を増やし、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に努めたい

(○)議題5 各部会の取り組み方針について(冊子139~140、162頁)

事務局 草薙副主幹

部会は、計画推進のため、庁内各課の委員が、課題解決に向けた活動を行うもの。

計画の効果的な推進及びネットワークを図るため、4部会で活動。

最終的に、健康ささらづ21推進委員会に計画遂行の進捗状況報告や提案をし、健康づくり推進協議会に謀る。

部会委員は、市職員で構成(162頁)。検討内容により、外部有識者を呼んで意見を聞くなど自由な裁量で運営する仕組みとなっている。

7月20日の第1回健康ささらづ21推進委員会での、各部会の取り組み方針を報告する。

1) 子どもの健康づくり推進部会

2次計画期間中には、市内公立小中学校の敷地内全面禁煙を実施できたこと、小学4年、中学2年実施の生活習慣病予防健診の事後指導を、市内小学校モデル校で実施し、マニュアルを完成させた。

マニュアル作成にあたっては、君津木更津医師会の学校保健部会に監修協力を得た。

3次計画では、マニュアルを活用した保健指導を養護教諭、学校栄養士、保健師とで実践するとともに、マニュアルの精査をはかっていく。

加えて、母子保健計画の推進も加わった。母子保健のスタートは妊娠届、母子手帳の交付。妊婦自身の生活習慣や食習慣が乱れていること、乳幼児健康診査でも生活や食が乱れている実態があることから、基本に立ち返る意味でも「早寝・早起き・朝ごはん」運動を妊娠期から学童・思春期まで一貫して啓発できるよう部会で取り組む方針を加えた。

2) 働きざかりの健康づくり推進部会

働きざかり世代である壮年期死亡を減少させることと健康寿命の延伸を目的に活動。

2次計画では、市内事業所の健康管理の実態を調査し、健診後の事後フォロー体制が薄いことや家族の健診まで手がまわっていない実態がわかった。

3次計画については、実態を踏まえ、健診を受けやすい体制・環境づくり。具体的には、国保の集団健診と、協会けんぽ特定健診の同時実施の体制作りの検討、健康講座を市内事業所に実施するなど、事業所と連携した健康づくり活動をしていく方針。

3) こころの健康づくり推進部会

2次計画では、窓口職員の研修会の開催や、相談対応マニュアル、相談窓口一覧リーフレットの作成、PRステッカーを市内配布など、こころの相談にあたる職員の資質の向上に力をいれてきた。

3次計画でも、窓口対応にあたる職員の資質の向上に努めるとともに、若者が命を大切に思えるよう、市内中学生への命の教育を定期的実施していく方針。(若年期対策の強化)

4) 食育推進部会

食育推進計画を推進する。2次計画で、保育園、学校、ショッピングモールで啓発活動を行ってきた。

健康3次計画の方針としては、生活習慣病予防としての食指導に加え、子どもの頃からの生活習慣病予防。家族で食事を整えていくことの啓発を強化していくこと、また食事マナーについても、学校の食器改善を働きかけて自然の恩恵、生産者への感謝、無駄や廃棄を少なくする「もったいない」という環境への配慮、地産地消への推進を方針とします。

6 議題についての質疑応答

意見：君津木更津医師会副会長 神田医師(推進協議会長)

後期高齢者に腎透析者が多い現状であれば、後期健診にも若年期健診同様に、クレアチニン検査をいれたらどうか。千葉市では後期健診にクレアチニン、アルブミン項目を入れている。

薬を多量服用している人や鎮痛剤を使うケースも、腎機能との関係が深いのでクレアチニン値が気になる。この件については医師会に持ち帰って検討させていただきたい。

市：貴重なご意見ありがとうございます。

質問：社会福祉協議会理事 金綱氏

人工透析者が南房総地域に圧倒的に多いが、原因分析は出来ていますか？

市回答：高齢化率が高いというのもある。年齢とともに腎機能は低下するので、高齢者が多いことが関係していると思われるが、具体的な原因分析には至っていない。

意見：社会福祉協議会理事 金綱氏

過疎化率と人工透析率も関係しているかもしれませんね。

質問：社会福祉協議会理事 金綱氏

市の保健衛生に関する計画で木更津市が1番遅れている計画はありますか？

また、1番進んでいる計画はありますか？

市回答：本市の食育計画は、県下でも早く作成した。千葉県自体の食育計画策定が、国内でワースト何位という状態であったが、4市管内でも当市は1番で、県下でも7~8番目に早く策定した。

質問：社会福祉協議会理事 金綱氏

食育が1番遅れていると思っていた。

他の計画は、いろいろ耳にするしPRもされている。しかし、食育推進と叫ばれ始めて久しいが、食育と農水産との連携もはかどっていない感じがする。家庭、学校、職場の中になかなか浸透していない気がする。千葉県が遅れているから、県内では進んでいるという認識なのですね。

市回答：補足になりますが、健康増進計画は努力目標ということで、千葉県内の全ての市町村が策定しているわけではない。

そんな中で、本市は全ての計画を策定している、歯科保健計画策定市町村は、県内でも少ない。母子保健や成人保健は、かなり以前から積み重ねてきた実績がある。健診や保健指導、健康相談など事業として確立している。それらに比較すると、食育の推進は遅れていると感じるのかもしれない。それは、食育の場が家庭、幼保、学校、職域それぞれが主体とならなければいけないから。市や県は地産地消を推進しているが、ライフステージ毎に主体があるので市が望んでいるような活動が出来ていないと思う。また、各主体の連携が望ましいが、連携も難しく、

なかなか計画通りにいかない状況である。

質問：社会福祉協議会理事 金綱氏

よくわかりました。

君津木更津医師会副会長 神田医師（推進協議会長）

食育はすぐ結果が出ないし、なかなか難しいのかもしれませんがね。

質問：君津木更津医師会副会長 神田医師（推進協議会長）

部会ではこどもから働きざかりまでの人達が対象になっている。高齢者は含まれていないのですね。

市回答：はい。

質問：市PTA連絡協議会会長 白石氏

食育推進部会で、学校の食器改善とあるが具体的にはどんなことか？

市回答：各学校、施設でバラバラな状況。少しずつ学校給食センターに習った形にしている。

お皿に米をよそっている学校もある。これは「犬食い」になってしまう。

食教育として、ちゃんとお茶碗を持って白米を食べられるようにしたい。

中郷小学校は整備できた。随時進めて行きたい。

質問：社会福祉協議会理事 金綱氏

若い人が、ご飯とおかずを交互に食べない光景をよくみかける。（単品食い）

健康上のエビデンスに何かあるか？

市回答 現時点の情報は把握していない。食教育として3点食が望ましい。白米は、おかずを引き立て、おいしく頂ける役割があるので味覚的にも望ましい。健康上で言えば、食物繊維を最初に食べることで血糖値の上昇が緩やかになる。

社会福祉協議会理事 金綱氏

行政指導（栄養指導）の範ちゅうでないということですね。

7 閉会

他に意見・質問がないようですので、本日の議事を終了します。

以上を持ちまして、「平成28年度木更津市健康づくり推進協議会」を閉会します。

以上